



第2回社叢インストラクター資格認定試験問題



2009年2月22日 賀茂御祖神社にて実施

筆記試験Ⅰ【10:00～11:00】：下記のうち1題を選択し、1,500字程度で記述（課題は事前に提示）配点=50

問題1：社叢は小面積で孤立した森林が多い、特に都市域では周辺の緑地とも切り離されている。このような社叢を保全する上での注意点を挙げなさい。

問題2：原生林（原始林）、天然林、天然生林、二次林、自然林、人工林という用語の使い方について、違いがわかるように述べなさい。

筆記試験Ⅱ【11:10～12:10】 配点=150

問題1 配点20点

次の文章を読み、（ ）の中の最も適切と思われる語句を一つ選び、記号に○をつけなさい。

日本に水田農業が伝来したのは、議論はあるもののほぼ1（A・紀元前10世紀ころ B・紀元前4, 3世紀ころ C・紀元前後 D・紀元2, 3世紀ころ）と考えられる。このころの社叢の姿については、神社の存在ともあわせて不明なところが多いが、少なくとも水田の可能なところは水田となり、その間に社叢が点在するという景観が成立した。

ただ「野」などと呼ばれた高燥地にまで水田が進出するのはもう少し時代が経ってからで、それは朝鮮半島から渡来してきた渡来人、京都でいえば2（A・秦氏 B・漢氏 C・高麗氏<貊氏> D・坂上氏）の影響が強い。この氏族は現在の韓国の東部にあたる新羅国をいわば母国とするが、先進的な土木・灌漑技術をもたらし、水がかりの悪い高燥地の開発に成功したのであって、畑作の可能な所は畑地、水田の可能な所は水田となり、社叢をめぐる新たな地域景観ができあがったといっていよう。

こうした社叢のありようを大きく変えたのは、3（A・条坊制 B・都城制 C・条里制 D・荘園制）の施行である。不規則な農地のなかに、神社のモリがごく自然に点在するという景観はほとんど消滅し、一辺をほぼ4（A・50メートル B・120メートル C・150メートル D・200メートル）とする農地の碁盤目状の土地区画が全国におよんだ。正確なその時代は確定できないが、これによっていっそう社叢の在り方は際立つことになり、人工的な農地区画のなかに、社叢があたかも浮島のごとくに原始のモリの姿を呈するようになった。

問題2 配点40点

西日本の平地には常緑樹を主とした社叢がみられます。この地域で社叢のようなふるさとの森を造成するにあたって、適するものに○をつけなさい。

イチイガシ（ ） クロガネモチ（ ） サワグルミ（ ） シラカシ（ ） タブノキ（ ）
 コジイ(ツブラジイ)（ ） サカキ（ ） クロマツ（ ） シュロ（ ） キョウチクトウ（ ）
 ヤマザクラ（ ） ムクノキ（ ） ミズナラ（ ） カナメモチ（ ） イチョウ（ ）
 カシワ（ ） ケヤキ（ ） モウソウチク（ ） ヤブツバキ（ ） クスノキ（ ）

問題3 配点30点

上記の樹種のなかから、社叢に侵入した場合、困るものをひとつ選び、その種の問題点とどのように管理していくのが望ましいかを簡潔に述べなさい。

種名（ ） 問題点と望ましい管理方法（ ）

問題4 配点30点

土地の人から世界大戦前後には、このあたりの山林ではよくマツタケが採れた。ということを知ることがありますが、この山林を正確にあらわしている文には（ ）に○を、あてはまらないものには×を、これだけではどちらともいえない場合は、△を記入しなさい。

- ア. この山林は植物群落の遷移系列上の一相である（ ）
- イ. 鎮守の森に普通に見られる林相である（ ）
- ウ. マツタケがとれるアカマツ林の高さは低木層の高さを出ない（ ）
- エ. この種の山林にはツツジ科の植物がよく生育している（ ）
- オ. 構成する樹種との量の違いから落葉広葉樹林と呼ばれることがある（ ）
- カ. マツタケを沢山採ろうとするためには、人手による山林の管理が必要である（ ）

問題5 配点10点

次の説明文の（ ）内に適当な言葉を下段から選んで記入しなさい。

- ・アカマツ植林では、アカマツは適湿で肥沃な場所で最もよく成長する（ ）
- ・尾根筋などの乾燥した痩せ地ではアカマツ林が優占し、生育する（ ）
- ・生態的最適域 ・生理的最適域 ・生物的最適域

問題6 配点20点

（ ）内に適当な文言を記入しなさい。

- ・平安時代の法典である「延喜式」の「神名帳」に記された神社を（ ）社という
- ・史跡・名勝・天然記念物等を指定し、森や環境を守る法律を（ ）法という
- ・森の縁にあって、その森を覆い被さるように発達した植物群落を（ ）群落といい、上記の植物群落の根本にあたる部分に広がり、森を強い風や光から守っている植物群落を（ ）群落という